



地方独立行政法人 神戸市民病院機構 平成24年度業務実績の概要

中央市民病院



西市民病院



資料2-1

1 市民に提供するサービスその他の業務の質の向上(医療の質の向上)

◆市民病院としての役割

《救急医療》

- 中央市民病院は市全域の基幹病院として、24時間体制の救急医療を継続し、新病院移転後から機能拡充した救命救急センターにて緊急度と重症度に応じた、より迅速かつ的確な治療及び処置を行った
- 西市民病院は市街地西部の中核病院として内科系・外科系での救急医療を毎日午前0時まで、金・土・日曜日は24時間体制で継続するとともに24時間365日体制の復活に向け9月からは木曜日及び祝休日の24時間救急を開始した

《小児・周産期医療》

- 中央市民病院は成育医療センターを活用した、安定的な小児・周産期医療を提供するとともに総合周産期母子医療センター指定に向け取り組みを進めた(平成25年4月指定)
- 西市民病院は診療体制を強化した小児科において充実した診療を継続するとともに、平成24年度より発達外来及びアレルギー外来を開設した

《感染症医療》

- 両病院において、感染管理専従看護師を中心として感染防止及び新興感染症対策への取り組みを継続した。また、中央市民病院では、10月より感染制御専任医師(ICD)を配置し体制の充実を図った

《災害時等における医療》

- 両病院では、緊急時に備え災害訓練等を実施した。西市民病院では2月に多数負傷者対応訓練を行った

◆専門性の高い医療の充実

- 中央市民病院では4月より乳腺外科を設置し、7月からは緩和ケア内科を設けるとともに、画像診断・放射線治療科を放射線診断科及び放射線治療科へ再編
- 西市民病院では4月より臨床腫瘍科を新設するとともに、免疫血液内科をリウマチ・膠原病内科と血液内科へ再編
- 4疾病への対応として、がん、糖尿病治療を充実、中でも西市民病院は「がん診療連携拠点病院に準じる病院」として認定を受けた。また、中央市民病院では脳卒中、急性心筋梗塞治療を積極的に実施した

◆市民・患者サービスの向上

- 中央市民病院では、携帯呼出端末や自動精算機の活用によって、待ち時間の有効利用や短縮を図った。また、12月より市民健康ライブラリーの運営を再開し内容の充実に着手した
- 西市民病院においては、外来看護担当マネージャー及びフロアマネージャーを継続配置し総合案内機能体制を継続

◆地域医療連携の推進

- 中央市民病院は地域医療支援病院として紹介・逆紹介のさらなる推進に努めるとともに、顔の見える連携を図るため、「地域連携懇話会」及び地域医療機関への訪問等を継続
- 西市民病院では地域医療支援病院に向けて地域医療機関への診療科部長の訪問を継続するとともに、かかりつけ医相談窓口の本運用を開始した
- 両病院において地域医療従事者向けのオープンカンファレンスを継続実施した

◆安全管理を徹底した医療の提供

- 法令・行動規範の遵守(コンプライアンスの推進)、医療安全対策、院内感染防止の徹底を図り、安全管理に徹した質の高い医療を提供した。中央市民病院では、全病棟への薬剤師の常駐を開始するとともに西市民病院においては、薬剤師の配置病棟を拡大し服薬指導等を充実させるとともに看護師等の負担軽減につなげた
- 職種を超え専門職が一つになって総合的に医療を行う「チーム医療」を推進した

◆医療の標準化・診療情報分析

- クリニカルパスの運用については、両病院において、引き続き、種類数の増加及び積極的な運用を図るとともに、適宜DPCの観点等を踏まえ見直しを行った。中央市民病院では電子カルテに対応したパスの一層の活用を推進した
- 両病院においてDPC分析ソフトを活用し、ベンチマーク比較等各種データを診療科に示すことで医療の質の標準化を推進した

◆臨床研究・治験の推進

- 両病院において、治験及び臨床研究を積極的に推進した。特に中央市民病院では、治験・臨床試験管理センターを設置し治験及び臨床研究に関する支援を行うとともに一層の推進を図った

3 安定した経営基盤の確立(資金収支の均衡)

	23年度実績	24年度		前年度比 目標比
		目標	実績	
単年度資金収支	38.0	13.0	31.3	△6.7 +17.7

◇ 24年度決算は、中央市民病院では地域医療連携のさらなる推進や入院前検査センターの活用等による平均在院日数の短縮手術件数の増加、西市民病院においては、医師確保の進展による全身麻酔を伴う手術の増、病床利用率の維持、外来化学療法件数等の増加により、両病院の医療収益が増加し、併せて、材料費等費用の削減に努めた結果、**目標を大きく上回る実績**となった

2 業務運営の改善及び効率化

◆すべての職員がプロとして活躍し、やりがいがある病院

- 看護職員に対する資格取得等支援(看護大学編入学、大学院留学、長期留学、短期派遣の継続実施)
- 医療技術職員に対する支援(学術研究費、臨床研究助成の継続実施)
- 事務職員・技術職員に対する支援(資格取得支援制度を構築し運用を開始)
- 優れた専門職の確保(経験者採用の継続、任期付正規職員制度の活用、育児短時間勤務制度の継続、夜間看護業務手当の改善等)
- 職員満足度の向上(医療クラークの活用、警備体制強化のため警察OBの継続配置:西は配置体制を強化、中央:職員のモチベーションの維持・向上につながる方策を検討、西:近未来の西市民病院のあり方について各診療科・部門より意見聴取)

◆人材の成長を促進する人事給与制度と育成プログラムの充実

- 努力が評価され報われる人事給与制度(専門・認定看護師手当の継続、優秀職員表彰の継続、夜間看護業務手当の改善、緊急呼出待機手当の創設)
- 研修制度の充実(採用後3年次固有職員研修を継続開催、全職場内研修の継続、3病院医事課職員研修の新規開催)

◆教育病院として人材育成への貢献

- 教育病院としての指導力の向上(中央市民病院総合診療科・西市民病院総合内科の医師による若手医師の教育、中央市民病院において臨床研修センターを新設し体制強化)
- 看護大学等との連携(看護学生、薬学部等学生の受入れ、西市民病院:JICA草の根技術協力事業に参画しベトナム・ダナン産婦人科・小児科病院の人材育成)

◆外部評価の活用・監査制度の充実

- 病院機能評価施設等認定(両病院 平成21年更新認定、中央市民病院救急医療 平成22年2月認定(中央市民病院は卒後臨床研修評価機構認定施設 平成23年10月更新認定)
- 監査制度の充実(監事監査、自主監査・相互監査の継続実施)

◆環境にやさしい病院づくり

- 省エネ CO2排出量の削減(夏冬の電力需給不足への対応、廊下等の間引き点灯、空調設定温度の調整)

4 中央市民病院の再整備・医療産業都市

◆中央市民病院の再整備

- 移転後もPFI業務に関するモニタリングを定期的実施し、業務確認や改善を図った

◆医療産業都市への寄与

- 中央市民病院において、先端医療センターとの連携会議を継続開催するとともに、高度医療機器の共同利用や共同研究を実施した。さらに、周辺に設置が計画されている医療機関との連携について開院前より意見交換・協議



数値目標の達成状況

【中央市民病院】

目標値達成

	23年度実績	24年度目標	24年度実績	前年度比 目標比
紹介率 ※ (%)	52.5	53以上	54.4	+1.9 +1.4
逆紹介率 ※ (%)	79.8	77以上	83.5	+3.7 +6.5
クリニカルパス数 (種類)	287	280	308	+21 +28
クリニカルパス適用率 (%)	49.7	55.0	55.6	+5.9 +0.6
経常収支比率 (%)	101.2	101.2	105.2	+4.0 +4.0
病床利用率 (%)	91.0	95.0	95.5	+4.5 +0.5
材料費比率 (%)	31.6	30.5	29.5	△2.1 △1.0
経費比率 (%)	20.1	19.5	18.5	△1.6 △1.0
給与費比率 (%)	45.3	45.2	43.3	△2.0 △1.9

※ 「紹介率」「逆紹介率」地域医療支援病院算定式での算出、但し西市民病院における()内の数値は従来算定式での算出をしている

【西市民病院】

	23年度実績	24年度目標	24年度実績	前年度比 目標比
紹介率 ※ (%)	40.7 (44.9)	40以上 (40以上)	43.2 (49.5)	+2.5 +3.2
逆紹介率 ※ (%)	47.8 (34.5)	54以上 (30以上)	62.6 (45.4)	+14.8 +8.6
クリニカルパス数 (種類)	126	100	179	+53 +79
クリニカルパス適用率 (%)	41.9	45.0	46.7	+4.8 +1.7
経常収支比率 (%)	105.9	97.3	105.9	- +8.6
病床利用率 (%)	91.3	90.5	90.0	△1.3 △0.5
材料費比率 (%)	23.2	25.6	22.9	△0.3 △2.7
経費比率 (%)	17.3	18.1	15.6	△1.7 △2.5
給与費比率 (%)	52.6	57.3	54.4	+1.8 △2.9

※ (下線付き)表示は、平成24年度新規・拡充項目